

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社学研データサービス

②事業者情報

名称：	小学館アカデミー 大宮だっこ保育園	種別：	保育所
代表者氏名：	古暮 美奈子	定員(利用人数)：	19 名
所在地：	〒330-0844 埼玉県さいたま市大宮区下町3丁目7番地1 グランドミッドタワーズ大宮 スカイトワー 2階	TEL	048-658-1257

③評価実施期間

令和 4 年 5 月 18 日 (契約日) ~ 令和 5 年 3 月 14 日 (評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

<小規模園の良さを生かして、理念である「あったかい心」を浸透させ、全職員が子ども及び保護者一人ひとりへのきめ細かい支援に取り組んでいます>

当園は、定員19名の0~2歳児を預かる小規模園です。そのため全職員が全ての子どもや保護者の状況を把握しており、送迎時には子ども一人ひとりの成長の様子を保護者にていねいに伝えています。睡眠や体調への配慮など子どもの状況に応じたきめ細やかな援助や職員の心のこもった対応について、保護者からは高い評価を得ています。職員は「あったかい心をもつ子どもに育てる」という理念について折に触れ討論しています。愛情を持ち、思いやりのある言葉や優しさなどを日々の保育や行事を行う際の基本としています。また、職員の提案を反映し、子どもが行事で力を発揮できるような工夫を取り入れるなど、小規模園の良さをさまざまな場面で生かしています。

<戸外活動を積極的に取り入れて意欲的に食べる環境を整え、子どもの心と体の健やかな成長をはぐくんでいます>

園では食事は生命の源であると考え、お腹が空き意欲的に食べることを大切に、午前と午後の散歩などの戸外活動を積極的に取り入れています。また、食事は個々のペースを尊重し、食事が楽しくなるように援助しています。献立は、子どもたちの健康な心と体の成長のために、日本の食文化を取り込み、出汁で薄味を心がけ、旬の食材で季節感を大切に作成しています。子どもの嗜好や喫食状況を確認し、味付けや切り方など調理を工夫しているため、子どもたちはとてもよく食べています。また栄養士と保育士が連携し、コロナ禍でもできる食育活動に取り組み、0歳児から野菜や果物などの食材を見る、触る、嗅ぐ、ちぎる、きのこをほぐすなどからはじめ、1歳児になると、とうもろこしの皮むきやさつま芋洗いなどの下準備、2歳児はおにぎり作り、シャーベット、型抜きクッキー作りなどに取り組んでいます。誕生会、行事食、お弁当箱など、イベントメニューも彩り良く盛り付けられ、楽しく食べる工夫をしています。

<年齢に応じて、法人独自の保育プログラムへの取り組みを楽しく展開し、子どもの育ちを職員間で振り返っています>

当園では「あたま、こころ、からだ」にバランスよく働きかける法人独自の保育プログラムの取り組みを3つの保育目標に掲げています。保育内容にはC(コミュニケーション)、R(リズムミック・運動)、N(ネイチャー)の3つの柱を取り入れて保育活動を展開しています。例えば、0歳児では「おうま」「うさぎ」などの童謡に合わせて楽しみながら体を使う「リズム遊び」、1歳児は泡あそびを通して、もこもこ、あわあわ、ふわふわの「感触遊び」を楽しみ五感に働きかけ、2歳児は「夏の虫探し」の散歩で、せみの観察や鳴き声に耳を済ませ、持ち帰った抜け殻の数を数え、図鑑を見て興味や関心を広げています。保育士も子どもの思いに共感しながら「あたま、こころ、からだ」の成長をはぐくんでいます。また、写真でドキュメンテーションを作成し、職員同士で育ちのポイントや気づきを考察し、子どもたちに何が育っているか、かかわり方はどうかなどを振り返り、保育実践の向上に取り組んでいます。保護者にも掲示などで知らせ、子どもの成長をともに喜んでいます。

◇特にコメントを要する点

<一人ひとりが好きな遊びを選び、さらに集中できる環境の工夫に期待します>

当園の保育室は、各年齢における発達を保障していくために、横に長いワンルームを棚などで仕切り、年齢別保育を行っています。各クラスは、それぞれに落ち着いて食べて、寝て、遊べるように、食事や着脱などの生活スペースと遊びのスペースを分けています。遊びのスペースでは絵本、ブロック、ままごとや体を動かす遊具などを設置し、好きなおもちゃを手にして遊べるように工夫しています。職員は、今ある遊具やおもちゃをさらに整理し、成長や発達に見合った手作りおもちゃや、見立て遊びができる素材を用意するなど自ら選び楽しめる選択肢を増やし、一人ひとりの好きな遊びを保障して満足できるまで遊びこめる環境設定の必要性を感じています。今後はその実現に向けて、職員全体で子ども一人ひとりがより主体的に活動できる環境を考え工夫していかれることを期待しています。

<子どもの生活の幅を広げる活動についての構想を実現されることを期待します>

コロナ禍以前は、園から地域に呼びかけて、声優による「おはなし玉手箱、よみきかせキャラバン」を行ったり、ここ数年は立地を生かして駅で子どもたちが新幹線の間近に見るという企画を実現させたりしています。このようにコロナ禍でも可能な限り取り組んではいますが、子どもの活動が制限されているため、子どもの生活の幅を広げることが課題であると園では捉えています。コロナ禍が収束した後は、例えば、散歩コースの紹介を兼ねてオリエンテーリングのようにファミリーイベントを行うなど、いずれ実施したいという企画や構想が複数あります。今後、状況に合わせた工夫のもとでこれらの企画や構想を実現していくことを期待します。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

第三者評価を受審する機会をいただいたことで、園運営を振り返り、改めて自分たちの課題点を見つめ直すことができました。

子どもたち一人ひとりが自ら考え、選択し、表現できる環境設定など、子どもたちが主体的に活動できる保育に向けて、職員で力を合わせていきたいと思えます。

また評価いただいているていねいな保育を今後も心掛け、安心して預けていただける保育園を目指していきます。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり